

「経験値」から「実践知」へ

7月21日(火) 令和2年度第一学期が終了します。4月16日(木)に変則スタートを余儀なくされた今学期でしたが、コロナウイルス感染症の対応は、人間の「命」を守る「実践知」を学ぶ貴重な経験となりました。

私たちは、安全と安心が保障されない世の中で、目に見えない恐怖に怯えつつ、明るい未来が必ずやってくると信じ、教育現場でできる限りの工夫を行ってきました。

この期間は、国や県が出した様々な指示事項を踏まえながら、本校での学びが深まり、人間が生きていくために必要な備えと行動のあり方を追究する日々でした。この姿勢は夏季休業中、第二学期以降も貫いていこうと気持ちを新たにしているところです。

一学期の終了に当たり、本校の成果をふり返ります。

- (1) 「情報メディア科」のある学校として、コロナ対応の方法を工夫・研究する機会を得たこと。生徒や保護者に情報を発信し、双方向のコミュニケーションが可能であることが認知されたこと。メディア科のノウハウを普通科の生徒や教職員にもシェアできしたこと。
- (2) 健康教育部が作成した「新型コロナウイルス感染症に関する連絡」用紙を使って生徒・保護者から体調に関する連絡が来たら速やかに対応する流れが確立したこと。うれしいことにこの用紙が、全県の学校で活用されたこと。
- (3) 「三密」を避ける授業を展開したこと。特に、クラスの人数が多いため授業を教室から視聴覚室に移して行ったり、総合的な探究の時間や集会時には、ソーシャルディスタンスを意識した並び方や配置を工夫したこと。外部からの講師による取組は、コロナの影響で細かい点に気を付けて実施できたこと。

本来実施する予定だった、運動会や全校鳥海登山、各部活動の大会、例年行っていた観光協会や商工会等の主催行事がなくなり、本校の教育活動の「核」になっている地域の方々との交流ができなくなつたことが、とても残念です。人間を成長させる人々のふれ合いを通して「実践知」を今後は、少しでも復活できればいいと願わざにはいられません。

他校にはない教育がある！

全校鳥海登山は、仁賀保高校の教育活動のなかで、スペシャルなものであると考えます。かつては、秋田市の高校でも太平山への登山が学校行事として行われていました。しかし、時代の要請により、生徒の安全や授業時間の確保等、学校行事の精選が進み、現在実施しているのは、矢島高校と本校だけです。昨年7月18日(木)、私は老体に鞭打って山頂をめざしました。額に汗して山頂付近にある大物忌神社にたどり着いた瞬間、達成感が生まれ出します晴れやかで清々しい気分になりました。

眼下に広がる日本海や飛島、男鹿半島など雄大な風景は、鉢立山荘からヘリコプターで山頂へ降り立つても観ることはできます。しかし体力と気力をふり絞り、風を感じながら友と語らい、山野草に心を和ませたり、野鳥の声に導かれ、大地を踏みしめ鳥海山中を歩む体験は、日々の勉強や部活動への心構えと実践に大いに役立ちます。

山頂に立つことは大事ですが、もっと大切なことは、計画を立てながら自分の足で一歩ずつ前進すること、辛くなつたら仲間(先生)を頼り、「師友もろとも手を取りて」悔いなく歩むこと、時には立ち止まつたりふり返りながら、足元を確認すること等、鳥海登山の貴重な体験は、私たちに生きるヒントや学ぶ方法を教えてくれます。今年度の開催は、断念せざるを得ませんでしたが、私たちは、来年度の全校鳥海登山に希望を託します。

★ アイコンタクト (i contacts) を心がけてください。目と目で通じ合い、face to face で向き合いながら、「考えながら行動する」笑顔の素敵な人間たれ！

★ メモをとる習慣を確立しましょう。生徒手帳をフル活用してください。メモをとる習慣は、将来必ず役に立ちます。

★ 意識力=意思・意志(瞬間)+気力(持続)です。意識力を育成することで、学ぶ力が増幅します。考えたことを継続してやり抜きましょう。

★ GTHは、「疑問→探究→発見」という学びの方程式です。

★ 「自己有用感」を高めてください。そのためにあなたは何に挑戦しますか？自分が誰かの役にたつためには、感謝の心と自己肯定感を持つことが大切です！

★ NPTは仁賀保高校プログラミング思考の略称です。NPTを意識して、学びを活性化しましょう。プログラミングは、Trial&Errorで進めましょう！